

木質化 〜吉野材の新たな使い方と癒しの空間を提案します〜

「木のまち吉野」木のある暮らしの事業を推し進める木のまち推進室。そのプロジェクトの取り組みとして、吉野材を利用した町内施設(吉野運動公園園体育館ロビー、宮滝河川交流センタートイレ)、宮滝河川交流センタートイレと、吉野町庁舎内の木質化事例を紹介します。

『吉野材の 新たな可能性を求めて』

吉野運動公園園体育館ロビー

南東から入る光をロビーの奥まで透過させ明るさを確保しながらも、利用者がひと休みできる落着きのある場所をつくること、また吉野材の新しい使い方に挑戦することをテーマに2つの大きな家具を設計しました。

「吉野材の弧壁」(Yoshino Cedar Screen)は、高さ1800mm、奥行き120mm、厚み15mmの片側に皮を残して製材した吉野材を30mmピッチで放射状に並べています。外側に皮を残すこと、また放射状に配置することで、遠くから見ると巨大な丸太のように見え、つい立の内側は巨大な丸太の内側にいるような包容力のある場所になりました。

直径1848mmの「吉野材の円卓」(Yoshino Cedar Table)は、板材からくり貫いた厚み15mmの円形の吉野材を30mmピッチで並べ、天板を形成しており、これは「芯が中心にあり

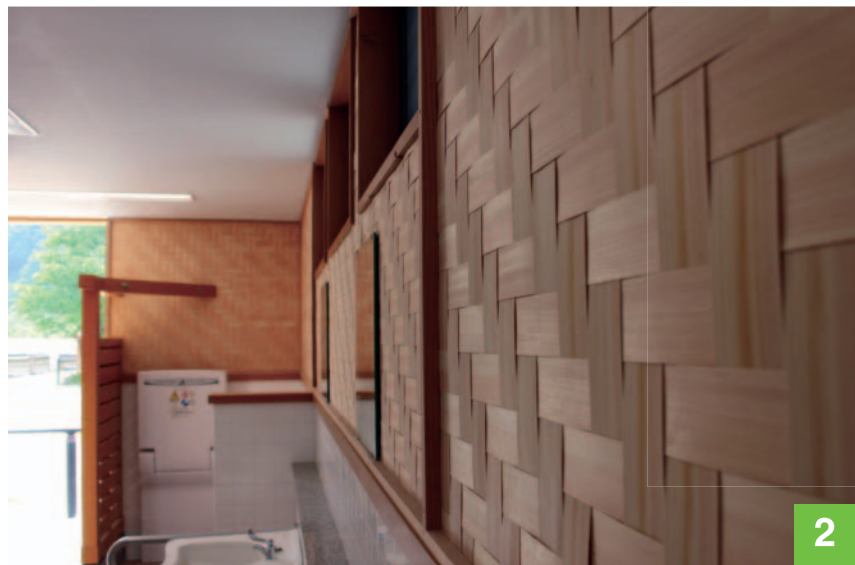


吉野運動公園園体育館ロビー テーブルとつい立て

年輪幅が均一」という吉野材の特徴を表しています。年輪の数は62本で現在の吉野町の年齢に対応させました。

宮滝河川交流センタートイレ

吉野材の単板によって、トイレが綺麗に生まれ変わりました。入ってすぐ、目に飛び込んでくる木の壁は、一枚一枚、規則的に交差させ、網代状に組んだことで、立体的な印象に。光の加減によって自然の木目や色合いが強調されるので、さまざまな表情が楽しめます。棧には吉野材の赤身を使用しています。



宮滝河川交流センター トイレ

“吉野材の弧壁
(Yoshino Cedar Screen)”
“吉野材の円卓
(Yoshino Cedar Table)”

体育館に置かれている2つの家具をデザインしたのは、吉野材の家(写真)を設計した建築家 長谷川豪氏。

長谷川氏は木のまちアドバイザーとして、吉野町と深いつながりがあります。

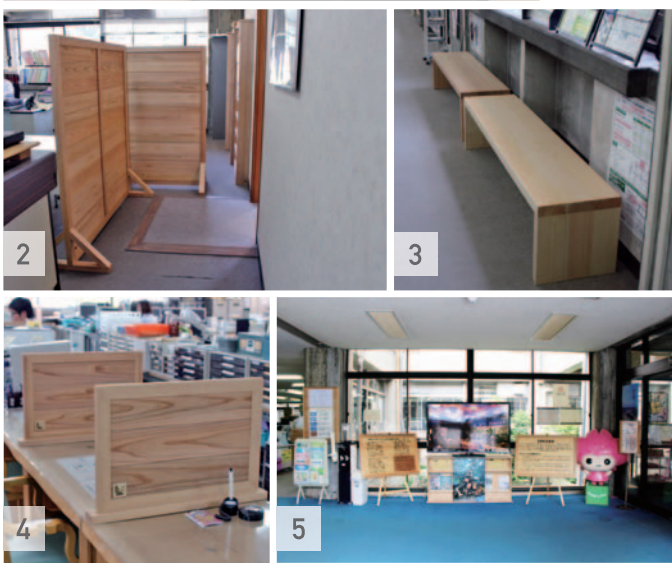


吉野川のほとりに建つ「吉野材の家」(飯具)

『吉野材の魅力再発信』

吉野町役場庁舎の木質化

吉野材は、家具などの生活に身近な製品にも利用できる良材であることを再発信したい、吉野材だからできる製品を提案したい、そんな想いを込めて、庁舎内の一部を木質化しました。応接室と町長室には、床に杉板が敷かれ、天井照明に吉野の和紙が貼られています。また、庁舎の玄関には、木の温かな空間が広がっています。ほっこり癒されるような感覚、目につれて優しく、温かみのある質感は、木が持つ最大の魅力です。建材として使われてきた歴史的背景を意識し、その魅力を引き出すため、デザインはシンプルに、材も余すことなく使用しました。ベンチには、樹齢80年の吉野杉と吉野松を使用しました。節



吉野杉のフローリング「写真1」(2階応接室と町長室)
吉野杉のパーテーション「写真2」 (2階町長室入口、副町長室内)
吉野杉と吉野松のベンチ「写真3」 (1階カウンター前、2階総務課前、町長室内)
吉野杉の卓上パーテーション「写真4」(1階カウンター)
吉野杉のテレビ棚と額「写真5」(1階正面玄関ロビー)
吉野杉の傘立て (1階正面玄関)
吉野杉の本棚 (2階総務課内)

がほとんどないところを見ると、先人から大切に育てられた木であることが分かります。目を通った美しい木目、色の濃淡など、様々な表情を楽しめるのは吉野材だからこそ。フローリング材を加工する技術で作った部材を使用するなど、吉野の技術も発信しています。

『木質化に込めた想い』

吉野材の特徴を生かした製品を町内外の方々に発信し、吉野材の良さを再認識してもらいたい。という想いを込めた木質化への取り組み。新しい発想やさまざまな可能性を模索し発信していくことと、先人から受けつがれてきたことを守りつなげていくこと。そのどちらも大切に続けていくことが、吉野町の未来につながり広がっていくでしょう。

今回の木質化は、町内製材所の方をはじめ、町民の皆さまや多方面からたくさんのご協力をいただきました。これからも木の暮らしの心地よさを人々に実感していただくため、製材のまち吉野町からできる吉野材の魅力発信を、皆さまと共に続けていけたら幸いです。

◆ご意見があれば、お聞かせください。

岡役場 産業観光振興課

木のまち推進室

TEL(32) 3081

岡役場 総合政策課 広報広聴室
TEL(32) 9090

奈良県立高等技術専門校の

『吉野林業見学授業』を受け入れ

新たな担い手の育成も大切にしています

家具工芸、建築、造園技術を学ぶ学生が校外訓練のため、5月24日、吉野町を訪れ、山林や製材所を見学し、吉野材の特徴や、製材方法を学びました。

吉野町では、学生を受け入れることにより、吉野材の新たな可能性を見いだす担い手の育成に、公・民一体となり、取り組んでいます。

